

令和元年度 学校評価 自己評価書

あま市立秋竹小学校

1 総 括

(1) 教育目標（学校経営案より）

学習指導要領の基本理念をふまえ、児童のすぐれた個性を伸ばし、個を生かす教育活動を通して、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を図る。

<めざす児童像>

- | | |
|-------|-----------------------|
| ○ 強く | 自他の生命を大切にし、たくましく生き抜く子 |
| ○ 正しく | 自ら学び、正しく判断できる子 |
| ○ 明るく | 礼儀正しく、心豊かで思いやりの心をもった子 |

(2) 本年度の重点努力目標

- ア 基礎・基本の確実な定着をめざし、「わかる授業」「楽しい授業」を心がける。さらに、体験的な学習、問題解決的な学習を重視し、自ら課題をもち、学び合う力の育成に努める。また、展開を工夫し、自分事として考える道徳の授業づくりに取り組む。
- イ 異年齢集団「なかま」活動により、思いやりの心や感謝の心を育てる。また、「読書の時間」の充実のために「読み聞かせ」を職員とボランティアで積極的に行う。
- ウ 外遊びを推奨し、体育的行事を計画的に実施するとともに、歯と口の健康に関する指導に取り組み、家庭の協力を得ながら正しい生活リズムづくりをはじめ基本的な生活習慣の育成に努める。
- エ 「あいさつ運動」をはじめ、諸行事を通して教師が児童に寄り添うなかで、児童理解を深め、心のつながりを大切にした学級・学校づくりに取り組む。
- オ 定期的な安全点検以外にも、遊具の安全な使用方法や廊下歩行の安全指導など、安全な学校環境づくりに努める。対応マニュアルを常に見直し、避難訓練を行う。
- カ データの共有化・諸会議の効率的な運営を行うことで多忙化解消を図り、教職員が健康で充実して働けるよう努める。
- キ 学校評価や個人懇談の実施、ホームページの更新、学校通信の発行、外部講師の招聘・行事へのPTA協力等を通して、学校を地域に開き、家庭・地域との信頼関係づくりに努める。

2 自己評価の実施体制

- (1) 調査時期 令和元年12月
- (2) 調査項目 別紙アンケート参照
- (3) 調査対象 有効回答者数／対象者数
- | | | | | |
|------|------------|------|---------|-------|
| ・児童 | 133名／全137名 | ・教職員 | 14名／14名 | 計251名 |
| ・保護者 | 104名／全107名 | | | |

3 調査結果

別紙アンケート結果参照

4 考 察【児童・保護者・教職員の総括的考察】

- (1) 児童アンケートを昨年度の結果と比較すると、全体的に昨年度とほぼ同様の結果になっている。一昨年度から昨年度、肯定的な回答が多くなり、それを今年度維持できていることは喜ばしいことである。9「学校であったことを、家でよく話す」は一昨年度に比べると13%増えている。保護者アンケートより5「学年通信や各種たより、HP等で、学校の様子がおおむねわかる」が3%増え94%となっていることから、家庭での学校に関する話題も増え、親子の会話が年々増えていることがわかる。
- (2) 保護者アンケートの2「学校の行事や授業参観には、できるだけ参加している」の肯定的評価が昨年度95%から99%へ向上している。また、項目5が向上していることから、保護者の学校に対する関心が高くなっていることがよくわかる。また、各種たよりやHPなどからの学校の情報発信の効果が伺える。
- (3) 保護者アンケートの11「わが子は大切にされ、認められている」は、肯定的な回答が92%となった。一昨年度は5%、昨年度は2%増加したが、今年度は変わっていない。7「わが子は、友だちとなかよく生活している」は肯定的評価が3%減り94%になった。6「わが子は楽しそうに学校へ通っている」は94%となり、昨年とほぼ同様に高評価を得ている。しかし、児童の「学校は楽しい」の結果は、肯定的な回答が88%であり、ま

た「全くあてはまらない」と答えた児童が4%いることに留意する必要がある。「学校が楽しい」は学校生活を送る上での基本である。すべての教職員で目をかけその理由を探るとともに、居場所の確保ができるようにしていかなければならない。

5 成果と課題

<成果>

保護者アンケートで、3「子どもの学習や生活について、担任や他の教職員に相談できる」は2%増えた。その中でも、「よくあてはまる」の割合が31%から39%に増加している。また、保護者アンケート4「教職員が熱意をもって教育にあたっている」も4%増え、肯定的な回答が92%となった。保護者の学校に対する信頼感が高まってきていると考えられる。

<課題>

- (1) 児童アンケート6「学校は楽しい」について、昨年度より減ったものの4%の児童が否定的な回答をしていることを重く受け止める必要がある。登校しぶりをしている児童、保健室登校を必要としている児童等、全職員で共通理解をしつつ対応し、すべての児童が「学校は楽しい」と答えられるような学校をめざしていくことが大切である。ただ、7「友達となかよく生活している」について、肯定的な回答が2%増え、「全くあてはまらない」と答えた児童は0になり、各学年とも良くなっている傾向が見られる。良好な人間関係を築ける力の更なる育成に努めていきたい。
- (2) 保護者アンケート8「わが子は自分からあいさつをよくする」が1%減の69%になり、達成状況がC評価に下がってしまった。教職員の関連項目の結果も50%である。学校目標として掲げているにもかかわらず、ここ数年なかなかよい結果がでていないので、今後その取り組みについて、教職員で検討していくことが喫緊の課題である。

1「本年度の学校重点目標を知っていた」が昨年度に続き低評価であった。「本物をめざそう」はわかりにくいという意見もあり、今年度「よくきこう」に変更した。教職員の関連項目の結果は12%に向上したのだが、保護者アンケートの結果は変化のないことから、保護者にも広く折に触れ伝えていく必要を感じる。10「わが子は学習がわかり、基礎的な学力が身についている」が3%減っている。基礎基本の確実な定着をめざし、「わかる授業」「楽しい授業」の実現に向け一層力を入れていきたい。

6 改善策

(1) 生徒指導体勢の確立

①生活アンケートやQ U等の実施及びその活用を図るとともに、個別の教育相談を実施する。②報告・連絡・相談を確実に行之、必要に応じてチームで取り組む体勢を確立する。③児童・保護者の声に耳を傾け寄り添うための研修を行う。④児童の様子についての情報交換を金曜日の午後の打ち合わせの時間に行い、指導事項については文書でも回覧し、引き継ぎが確実にできるようにする。⑤スクールカウンセラーや教育相談センターなどと相談連携する。

(2) 心の教育の充実

今年度6月、学校保健委員会において、違ったものの見方ができることに気づき、自他のよいところに目を向けることができる力をつけさせたいというねらいで、全校児童対象のリフレーミングを行った。また、毎月第2週にリフレーミングの例を載せた「からだところのふりかえりシート」を実施し、1日の心の振り返りができる機会を設けた。その結果、違ったものの見方ができることについて理解させることはできたが、リフレーミングを活用できている児童は少ない。リフレーミングを活用することでものの見方をプラスに変え、自分や周りの人のよいところに目を向けることができる児童に育てていく。また、学校生活全般において、教師から児童・児童相互のがんばりを認めることを大切にし、社会性を育み、自己有用感をもたせる。

(3) 保護者との連携を図るための情報発信

学校重点目標が保護者に十分理解されていないという点について、情報発信の内容やあり方について再度検討する。学年通信や各種たより、HP等から学校の様子がわかると答えてくださっている保護者が多いので、これらを活かしていろいろな情報を地域・家庭に伝えていきたい。

(4) あいさつのとびかう学校づくり

温かい人間関係の基本であり、コミュニケーションの始まりであるあいさつが進んでできる児童を育成するため、教職員自らが今以上に率先して行う。また、全校で取り組むあいさつ週間を設け、温かい言葉のキャッチボールが自然にできるようになる取り組みを行う。それらを通し、基本的生活習慣が身に付くよう支援する。